

# 国際研究集会における研究発表

大学院博士前期課程・情報科学専攻 内田さちえ

この度、私は 2012 年 5 月 22 日から 25 日まで開催された 2012 China-Japan-Korea International Conference on Mathematical Biology (CJKICMB) に参加し、研究発表を行いました。これは、情報科学専攻の資金援助を受けて実現したものです。

CJKICMB は東アジアにおける数理生物学の発展を目的に 2 年おきに開催される国際会議です。今回は韓国・釜山の釜山大学校 (Pusan National University) が会場となり、日本・中国・韓国から多くの研究者が集まり研究発表や活発な議論を行いました。

私は、2 日目に “An Individual-based modeling of infectious disease in continuous space-spatial population dynamics and the evolution of infection rate” という題目でポスター発表を行いました。これは、空間上に配置された個体が一定のルールで、感染・回復・移動を行った場合に個体分布がどのようになるのか、また、感染率・回復率は感染が進むにつれどのように進化するのかをシミュレーションによって検証するという内容です。

今回が初めての学会参加であり、さらに国際学会であったため、英語で自分の研究を説明することができるのか出発前は不安でいっぱいでした。会場に到着すると、至る所で英語が飛び交い、場の雰囲気には圧倒されるばかりでした。しかし、いざポスター発表の時間になりポスターの前に立つと多くの方が私の話を聞きに来てくださり、たくさんの方と意見交換ができたので、終わる頃には不安よりも楽しさでいっぱいになりました。拙い英語ながらも、自分の意図が相手に伝わったときは本当に嬉しかったです。また、意見交換から、今回の研究に欠けていた点、今後の新たなテーマを見つけることができ、研究を進めて行く中で、学会で様々な研究者の方から意見をいただく重要性を感じました。また、私のポスターが今会議でのポスター賞 2 件のうち 1 件として選定されました。大変嬉しく思うと同時に今後の励みになりました。

今学会では、感染症を研究されている方も多数参加されており、自分自身の知見を深める良い機会にもなりました。同じ感染症というテーマでも研究者によって取り組む手法も、着眼点も違うためどの方の研究も私にとっては新鮮で興味深く感じました。

2 日目の夜に開かれたバンケットでは韓国の学生の方々と交流することができました。韓国の学生生活や文化の違いに触れることができ非常に良い経験となりました。英語での会話は、伝えることができた時は嬉しかったもののなかなか伝えたいことを上手く言えず悔しさも残りました。語学力の必要性を痛感した出来事となりました。

釜山は首都ソウルに次ぐ韓国第 2 の都市です。福岡県までは 200km ほどの距離にあることから、九州を中心に日本から多くの観光客が訪れます。しかし、日本語はもちろん英

語も通じないお店も多く、お昼ご飯を食べにお店に行きメニューを見てハングル文字だらけで何を注文すれば良いのかわからないということもしばしばありました。

今回の経験を経て、研究に対する知見はもちろん、研究に対する姿勢、語学の大切さ、韓国の文化など多くのことを学ぶことができました。これらの経験を糧に、今後の研究に活かしていきたいです。また、最後になりましたが今回このような機会を与えて下さいました皆様に感謝致します。ありがとうございます。

